学級通信を活用したキャリア教育の実践
―「自分の夢」と「身近な大人の夢調べ」を題材として―

教育実践研究科　教職実践専攻　教職実践基礎領域
鴨下晃大

1.　テーマ設定の理由

（1）　学校の実態から

平成２２年３月１５日、この日豊橋市立豊岡中学校（以後、実習校）の２年生たちは、総合的な学習の時間で、インターネットによって上級学校を調べた。生徒たちは、それまでに職場体験を経験し、自らの将来に向けて大きく歩みを進めようとしていた。生徒たちが調べている学校をみると、生徒それぞれに特徴があった。

部活動のサッカーを、高校でも続けて行いたいという願いからサッカー部の活動が盛んな学校を調べていた生徒、服飾系の仕事に就きたいと考えてデザイン学科のある高校を調べている生徒、職場体験学習で経験した美容院での仕事を材料に専門学校を調べる生徒など、進学した先で行いたいことを明確に持っている生徒がいた。しかし、その一方で、購買部があるからという理由で調べる高校を決める生徒、住んでいる地域から近いからという理由で近隣の高校を調べている生徒が多く見られた。

私は、この調べ学習に取り組む生徒たちの様子を見て、生徒たちが自身の将来について深く考える力が十分ついていないように思えた。行きたい学校と自分の現状の学力が乖離していたり、進学しなければならないからという想いで目先のことだけを考えていたり、苦労したくないからと学力試験を受験せずに進学できる学校を探していたりという姿があったからだ。

私は、この日の生徒たちの様子を見て、大人になった自分を思い描いて、自らの人生に希望を持ち、そこにむかって今どのような道筋をたどっていくべきか考えられる力をつけて欲しいと思うようになった。

そして、そしてこのような力は、３年生を間近に控えた２年生の終盤から養っていくのではなく、具体的な進路先を考えようとする時期にむけて、中学校入学当時から系統的かつ継続的に養っていく必要があると考えた。

また、実習校の平成２１年度の保護者の学校評価アンケートを集計・分析した結果、「基本的な生活習慣の定着に努力している」の項目に「そう思う」「おおむねそう思う」と回答した保護者は、９５％と高く、この項目に対する努力は認められている。しかし一方では、「そう思わない」、「あまりそう思わない」と回答した保護者の割合が多く、今後の課題として残されたものもある。例えば、「学習習慣の充実と学力の充実」の項目では３２％、「生徒の「生きる力」を育てる指導の展開」や「生徒にわかる授業・興味関心がわく授業の実施」、「少人数指導・TT等の確かな学力のためのきめ細やかな学習の展開」の３項目は３０％を超え、充実した授業・学習指導に課題があるとしている。さらに、「個に応じた進路指導・キャリア教育の展開」では、４１％の保護者が「そう思わない」、「あまりそう思わない」と回答しており、平成２１年度の保護者の学校評価アンケートの各項目のうち最も低く翌年度以降に向けて取り組むべき大きな課題だと言える。実習校の保護者が、平成２２年度に向けて以上３点に関わる教育活動の充実を求めていることが分かる。

実習校の保護者の最たる願いは、私が感じた生徒たちの課題を包含するものである。先に挙げた「大人になった自分を思い描いて、自らの人生に希望を持ち、そこにむかって今どのような道筋をたどっていくべきか考えられる力」は、キャリア教育によって育てようとする４領域８能力のうち「将来設計能力」に該当する（表１）。生徒たちの将来設計能力を伸長していくことが出来れば、私が感じた生徒たちの課題を解決していくことと、保護者の願いに応えることの双方に対応することが出来るのではないだろうか。

（2）　キャリア教育の必要性から

「キャリア教育」という言葉は、平成１１年に中央教育審議会から出された「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」（以後、１１年答申）の中で初めて用いられた。それ以後、学校教育の現場においても「キャリア教育」という言葉が使われ始めた。しかし、学校教育の現場では、それまでにあった上級学校への進学指導を中心とした「進路指導」という言葉に引きずられ、半ば同義として用いられていたようだ。それでは、キャリア教育と進路指導はどのように違うのだろうか。

キャリア教育＝（≒）進路指導と考えることは、決して間違ってはいない。しかし、正確というわけでもない。 何故ならば、キャリア教育は、戦前から続く教科としての職業指導や、それが学級活動を中心とした教科外活動で行われるようになり進路指導という名称に変わってきているという歴史的な系譜の上に立っているためだ。

吉田[ii]は、中央教育審議会[iii]や文部科学省[iv]によるキャリア教育の定義を引用し、新しい概念であるキャリア教育とこれまでの進路指導の関係について次のように説明している。吉田によれば、キャリア教育は、従前の職業教育や進路指導を中核に据えて推進されることが提唱されている（図１）。

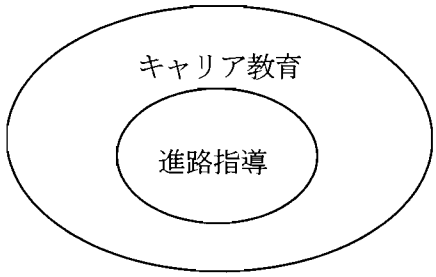


図１　キャリア教育と進路指導の関係
（※吉田の論をもとに筆者作成）

それでは、キャリア教育は具体的に生徒の何を育てようとする教育なのだろうか。

一般に、キャリアという言葉を聞いて何を連想するだろうか。「キャリアウーマン」「管理職」「資格」といったような職業に関するものから、「生き方」「生活」「役割」といった人生に関するものにまでその連想は多岐にわたるだろう。

菊池[v]は、キャリアという言葉には、「職業キャリア」と「ライフキャリア」という二つの意味が込められているとしている。「職業キャリア」は、職業や職務との関連の中で論じられる場合に用いられ、「ライフキャリア」とは、生涯発達の観点が含まれているときに用いられる。「キャリア」の中に「職業キャリア」と「ライフキャリア」という二つの意味が含まれているが故に、１１年答申によって各学校にキャリア教育の推進が求められても、それぞれの学校・教員間で解釈の違いが生まれてしまうことになった。そのために、学校現場で「キャリア教育と進路指導の違いが分からない」といった声が出ていたのだろう。菊池は、このような現状に対して、「キャリア教育というときにも、ある人は前者のニュアンス（ライフキャリア）でとらえ、ある人は後者のニュアンス（職業キャリア）でとらえることにもなる。本来はこの二つは矛盾するものではなく、統合されるべきものである[vi]」と述べている。

１１年答申が出された経緯として、これまで学校教育で行われてきた進路指導の二つの大きな問題を取り上げられている。一つは、バブル経済の崩壊や受験戦争の激化によってそれまで行われてきた生徒の適性・能力と進路・職業との適合性を重視した指導では、社会に対応できなくなってきたという問題である。もう一つは、校種間の接続や学校から社会への移行の場面での指導が分断されており、本当の意味で生徒の将来について考えようという指導・援助の姿勢が希薄化してきたという問題である。これら二つの問題を抱えた学校現場における進路指導では、生徒の学力に見合う進路に進ませるような学校選択や職業選択の指導に陥りがちであった。

そこで、もう一度生徒の将来を考えた進路指導とは何かを問い直そうとして、この１１年答申でキャリア教育という概念がうちだされた。

１１年答申では、「学校と社会及び高等教育との円滑な接続を図るためのキャリア教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」として、以下の４つの価値観・能力・態度を育成することを理念としている。

- 望ましい職業観・勤労観
- 自己の個性の理解
- 職業に関する知識や技能
- 主体的に進路を選択する能力・態度

吉田と菊池の説を図式化すると下記のようになる（図２）。

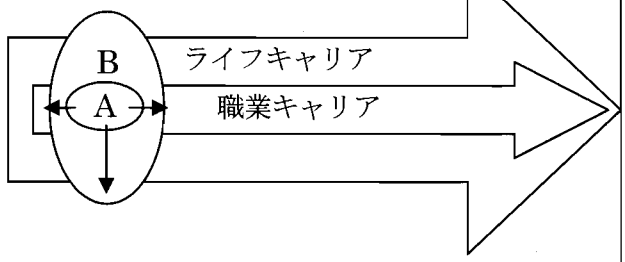


図２　ライフキャリアと職業キャリアの関係
（※筆者作）

キャリア教育の考え方が出される前に問題視されていた進路指導のあり方では、図２のⒶで示したように職業キャリアの前半部分にかかる支援がほとんどであった。１１年答申によって示されたキャリア教育のあり方では、図２のⒷで示したようにその生徒の職業キャリアを含めたライフキャリアに対しても教育を行おうとするものである。キャリア教育は、従来進路指導が担ってきた支援の幅を広げ、一人一人の生徒の「生き方」を教育することを目的とした。

この１１年答申を受けて、各学校ではキャリア教育を推進すべく動き出した。しかし、菊池が指摘したように１１年答申が掲げた「キャリア」という言葉の理念が抽象的であり、先に挙げたように進路指導との住み分けが明確でなく、学校現場の困惑を招いた。

そこで、文部科学省は、平成１８年１１月に『小学校・中学校・高等学校　キャリア教育推進の手引き　－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－』を発表し、各学校がキャリア教育を推進していくための具体的な指針を示した。その中で、小学校から高等学校までの児童生徒たちが身につけるべき能力を系統的に指導できるように、以下のような表を示している（表１）[vii]。

教師力向上実習Ｉでは、冒頭に挙げたように目先のことにばかり目が向きがちな生徒たちに対して、特に将来設計能力に焦点をあてた実践を計画した。

○職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）－職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から　※ 太字は、「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す

			小学校			中学校	高等学校
			低学年	中学年	高学年		
職業的（進路）発達の段階			進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。			・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成			・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての職業観・勤労観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
職業的（進路）発達にかかわる諸能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度				
領域	領域説明	能力説明					
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	**【自他の理解能力】** 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 ・お世話になった人などに感謝し親切にする。	・自分のよいところを見つける。 ・友達のよいところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。	・自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。	・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 ・自分が言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。	・自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 ・他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 ・互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 ・自分の考えをみんなの前で話す。	・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 ・友達の気持ちや考えを理解しようとする。 ・友達と協力して、学習や活動に取り組む。	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。	・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 ・新しい環境や人間関係に適応する。	・自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 ・異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 ・リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 ・新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	**【情報収集・探索能力】** 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。	・いろいろな職業や生き方があることが分かる。 ・分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。	・産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 ・必要応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 ・就職後の学習の機会や上級学校卒業時の就職等に関する情報を探索する。 ・職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 ・調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。	・係や当番活動に積極的にかかわる。 ・働くことの楽しさが分かる。	・施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。 ・学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。	・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	・就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 ・社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 ・多様な職業観・勤労観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	**【役割把握・認識能力】** 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。	・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 ・日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	・学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ・将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする。 ・決められた時間やきまりを守ろうとする。	・将来の夢や希望を持つ。 ・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。 ・学習等の計画を立てる。	・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業を持ち、今、しなければならないことを考える。	・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	・生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 ・職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 ・将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	**【選択能力】** 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自分の好きなもの、大切なものを持つ。 ・学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・してはいけないことが分かり、自制する。	・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。	・自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 ・教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	・選択の基準となる自分なりの価値観、職業観・勤労観を持つ。 ・多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 ・選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする。	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 ・自分の力で課題を解決しようと努力する。	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。	・学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。	・将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 ・自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 ・理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身につける。

表１　職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）－職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から
（国立教育政策研究所生徒指導研究センター平成 14 年 11 月）

2.　教師力向上実習Ｉの実践計画

教師力向上実習Ｉは、実習校で５週間にわたって主に学級経営に関する実習を行った。

（1）　実習校での取り組み

実習校では、生徒たちに「伸びる」と呼ばれる生活記録を書かせている。「伸びる」には、毎日の予定や学習時間、日記を書く欄が設けられており、生徒たちは、この日記欄にその日の印象に残った出来事を書いている。担任教員は、この日記に対してコメントを加え、紙面上で生徒とやりとりすることで生徒理解に役立てている。

この生活記録は、私が中学生だった頃にも名称は違えど行われていた実践である。他の中学校でも同様に生活記録を書かせており、一般的な実践である。

生活記録の良さは、毎日日記を書かせ、毎日コメントを加えることで、学級内の各生徒と担任教員が個別に関わる場を確保することができる点にある。そして、生活記録が担任教員と個別に関わるということが保障されているため、生徒がクラスメイトや友だちに打ち明けられない悩みを書いてくることも多い。また、日記の記述から生徒たちが普段どのようなことに感動を覚えるのか理解することもできる。生徒たちが書く日記は、時系列に沿って生徒の変容を理解でき、かつ、学級内の人間関係を把握できる一つの手段でもある。

しかし、生活記録が個別の関わりを前提としているが故に、生徒一人と教員一人の個々の関わりにとどまってしまっており、生徒たちの普段の生活を学級内で共有することができないという弱点もある。

生活記録を題材として学級内の生徒の交流を広げ深めていくために、個別の関わりの一方である教師が問題を整理し、他の生徒に紹介できる学級通信配布という手立てで試みることにした。

学級通信を介在し、生徒たち自身がお互いの夢を共有することで、生徒たちが自身の将来を考えるための材料を得ることができ、将来設計能力の伸長に役立てられると考えた。

（2）　家庭・地域との関わり

学級通信は、生徒の保護者に対する連絡にも用いられることがある。保護者にとってみれば、学級通信は､学校での様子を知る資料としての機能もあり、保護者との良好な関係作りの上でも有用性がある。

平成２１年度の学校評価アンケートの考察より、本校の保護者が「個に応じた進路指導・キャリア教育の展開」にやや不安を抱えていることが見えてきたことは、先に述べた。学級通信に生徒たちが自らの将来をどのように考えているか生徒たちの言葉で掲載することによって、保護者が抱えている不安への対処となる。更に、学級通信に取り上げることによって、家庭で保護者と生徒が生徒の将来について話題に上げることも考えられ、生徒の将来をともに考えるきっかけともなる。そのため、生徒の夢の実現へ向けて、家庭と学校の連携を促す材料にもなるのではないかと考えた。家庭や地域の方々は、生徒たちの身近な大人として、夢の実現に向かう着実な道筋を示してくれる教材でもある。何故ならば、生徒たちにとって社会で働く身近な大人たちは、夢を描き実現した大人として映るからだ。

そこで、生徒たちが、夢を描き実現していくために「今ここ」で何をすればよいのか考えられるように、学級通信を通して家庭・地域の協力を得ようと考えた。

以上２点により、この教師力向上実習Ｉでは、学級通信を活用したキャリア教育の実践を配当された中学１年生を対象に行うことを計画した。具体的には、以下に示した２つの活動を行う。

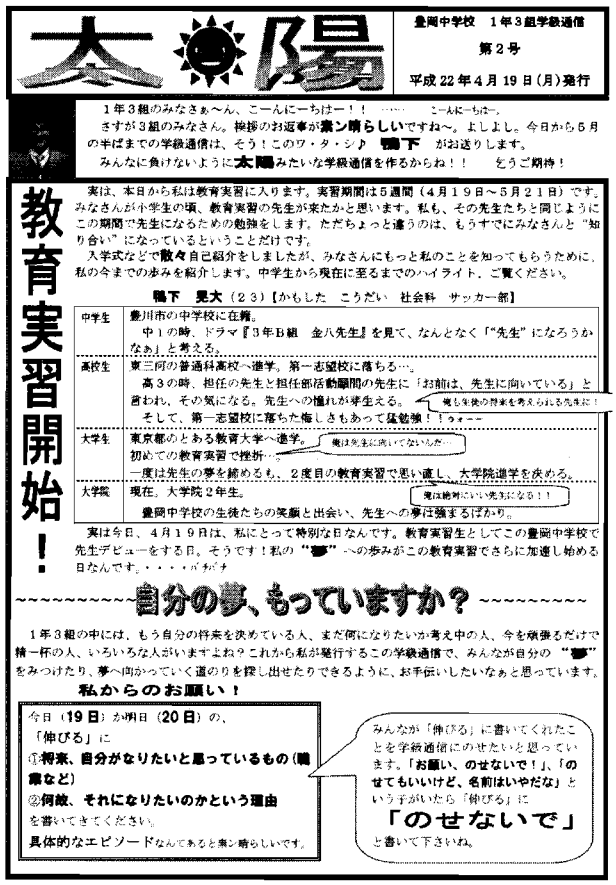
- 【自分の夢】
  生徒たちの生活記録に自分の夢を書かせ、その内容を学級通信に掲載して、生徒相互の共有を図る。

- 【身近な大人の夢調べ】[viii]
  生徒の身近な大人に対して職業という観点を含めてこれまでどのような人生を歩んできたか生徒に問わせる。

3.　実践の経過

（1）　【自分の夢】

生徒たちが入学して２週間がたったころ、私の教師力向上実習Ｉがスタートした。実習初日に私の学級通信第１号を配信した（図３）。この学級通信の第１号では、私の実習が始まることを伝えると共に、生徒たちの生活記録に「自分の夢」を書いてくるよう指示をした。その際、学級通信へ掲載するという旨を生徒に伝え、掲載してほしくない生徒は日記欄のどこかに「のせないで」という一言をいれるように併せて指示をした。


太陽

豊岡中学校　1年3組学級通信
第2号
平成22年4月19日(月)発行

1年3組のみなさぁ～ん、こーんにーちはー！！　……　こーんにーちは～。
さすが3組のみなさん。挨拶のお返事が素ン晴らしいですね～。よしよし。今日から5月の半ばまでの学級通信は、そう！このワ・タ・シ♪　鶴下　がお送りします。
みんなに負けないように太陽みたいな学級通信を作るからね！！　乞うご期待！

教育実習開始！

実は、本日から私は教育実習に入ります。実習期間は5週間（4月19日～5月21日）です。みなさんが小学生の頃、教育実習の先生が来たかと思います。私も、その先生たちと同じようにこの期間で先生になるための勉強をします。ただちょっと違うのは、もうすでにみなさんと“知り合い”になっているということだけです。
入学式などで散々自己紹介をしましたが、みなさんにもっと私のことを知ってもらうために、私の今までの歩みを紹介します。中学生から現在に至るまでのハイライト。ご覧ください。

鶴下　見大（23）【かもした　こうだい　社会科　サッカー部】

中学生	豊川市の中学校に在籍。 中１の時、ドラマ『3年B組　金八先生』を見て、なんとなく「“先生”になろうかなぁ」と考える。
高校生	東三河の普通科高校へ進学。第一志望校に落ちる…。 高３の時、担任の先生と担任部活動顧問の先生に「お前は、先生に向いている」と言われ、その気になる。先生への憧れが芽生える。 そして、第一志望校に落ちた悔しさもあって猛勉強！！うォォー （俺も生徒の将来を考えられる先生に！）
大学生	東京都のとある教育大学へ進学。 初めての教育実習で挫折… 一度は先生の夢を諦めるも、２度目の教育実習で思い直し、大学院進学を決める。 （俺は先生に向いてないんだ…）
大学院	現在、大学院２年生。 豊岡中学校の生徒たちの笑顔と出会い、先生への夢は強まるばかり。 （俺は絶対にいい先生になる！！）

実は今日、4月19日は、私にとって特別な日なんです。教育実習生としてこの豊岡中学校で先生デビューをする日。そうです！私の“夢”への歩みがこの教育実習でさらに加速し始める日なんです。・・・・パチパチ

～～～～～～～～～自分の夢、もっていますか？～～～～～～～～～

1年3組の中には、もう自分の将来を決めている人、まだ何になりたいか考え中の人、今を頑張るだけで精一杯の人、いろいろな人がいますよね？これから私が発行するこの学級通信で、みんなが自分の“夢”をみつけたり、夢へ向かっていく道のりを探し出せたりできるように、お手伝いしたいなぁと思っています。

私からのお願い！

今日（19日）か明日（20日）の、
「伸びる」に
①将来、自分がなりたいと思っているもの（職業など）
②何故、それになりたいのかという理由
を書いてきてください。
具体的なエピソードなんてあると素ン晴らしいです。

みんなが「伸びる」に書いてくれたことを学級通信にのせたいと思っています。「お願い、のせないで！」、「のせてもいいけど、名前はいやだな」という子がいたら「伸びる」に
「のせないで」
と書いて下さいね。

図３　学級通信第１号

この学級通信第１号[ix]には、【自分の夢】の活動の指示の他に、私自身が教員を志そうと決意するにいたった経緯が載せてある。これは、生徒たちが将来の夢を考える際のモデルとなるようにと意図して提示した。生徒たちと年齢的に近い存在である私が、夢の実現に向けてどのように進路選択してきたかというモデルを示すことで、生徒たちが自らの将来を考える手助けとなるだろう。

また、生徒たちが将来の夢をもとうと思ったきっかけを大切にしてほしいという私自身の願いがあったため、私自身が教員を志そうと決意したそもそも

のきっかけも併せて載せてある。誰もが将来の夢を描くとき、自身が経験した何らかの出来事をきっかけとしている。私の場合、中学校１年生の時にTBSドラマ『３年Ｂ組　金八先生』を見たことがそもそものきっかけである。私にとって、このドラマを見たことが人生を変える出会いであったと言える。生徒たちにとっても、これから待ち受けるあらゆる出会いが生徒たちの人生の展望を持たせてくれる貴重なものとなる可能性がある。この【自分の夢】の活動には、将来設計能力の育成を図るとともに、入学したばかりの生徒たちが今後の中学校生活で出会うであろうあらゆる経験を大切にしてほしいという願いも込めた。

学級通信第１号を配布した翌日、生徒たちは指示した通りに生活記録に自らの将来の夢を書いてきた。夢に関する記述をしなかったものは３名だった。生徒たちが書いてきたものを大観すると、何らかの職業を挙げてきた生徒は３１人中２８人で、まだ決まっていないと答えた生徒は３人だった。何らかの職業をあげた生徒のうち、１８人は職業を一つに絞り具体的に将来の夢を決めていた。また、「のせないで」と書いてきた生徒は３４人中１２人だった。この生徒たちの意思表示から、自分の今の夢に自信が持てない様子が分かる。

生徒たちが書いてきた【自分の夢】の一例を以下に挙げる。

＜具体的な生徒＞

● 生徒Ａ

私の将来の夢は保育士です。妹とか弟がいないので、近所で小さい子とか見たりすると、すっごくかわいいと思ってしまいます。私は小さい子が大好きなので、保育園か幼ち園の先生になりたいです。

● 生徒Ｂ

ぼくの将来の夢は、外科医です。外科医になれたら次は内臓だけでなく目とか耳とか脳とか体のいろいろなところのちりょうが手術できるようになりたいです。

● 生徒Ｃ

将来、自分がなりたいと思っているものは、ラグビーでＡＬＬ　ＡＩＣＨＩ（Ｕ－１５愛知県選抜）に選ばれたいです。理由、ラグビー部のある高校に入りやすくなるし、かんたんになれるものじゃないから。

＜抽象的な生徒＞

● 生徒Ｄ

昨日書けなかった将来の夢を話します。私の将来の夢は迷い中です。たくさんの夢があります。でも私は子供のめんどうを見る仕事か料理関係がいいと思います。これから勉強をがんばりたいと思います。

● 生徒Ｅ

私のしょうらいの夢は、どうぶつかんけいの仕事につきたいです。私は、動物が大好きなのでその仕事につきたいなと思いました。それにおせわもすきだからです。

● 生徒Ｆ

私が将来なりたいのはふくしかんけいです。まだほかにいろいろあります。ふくしかんけいに入りたい理由は、６年の時、はんげつばんそんしょうというのをやってしまい、リハビリにかよいました。そのときにやさしくサポートしてくれた女の先生みたいに私もなれたらいいなと思いました。

＜未定の生徒＞

● 生徒Ｇ

将来の夢は特にないけれど、ごく普通に幸せにくらせればいいです。夢があったらそれを叶えていればいいです。なぜごくふつうがいいというのは、それが一番だからです。まぁひとぞれぞれです。

● 生徒Ｈ

将来の夢は、とくにないです。理由はまだ将来の夢を決めるのははやいと思うから。

● 生徒Ｉ

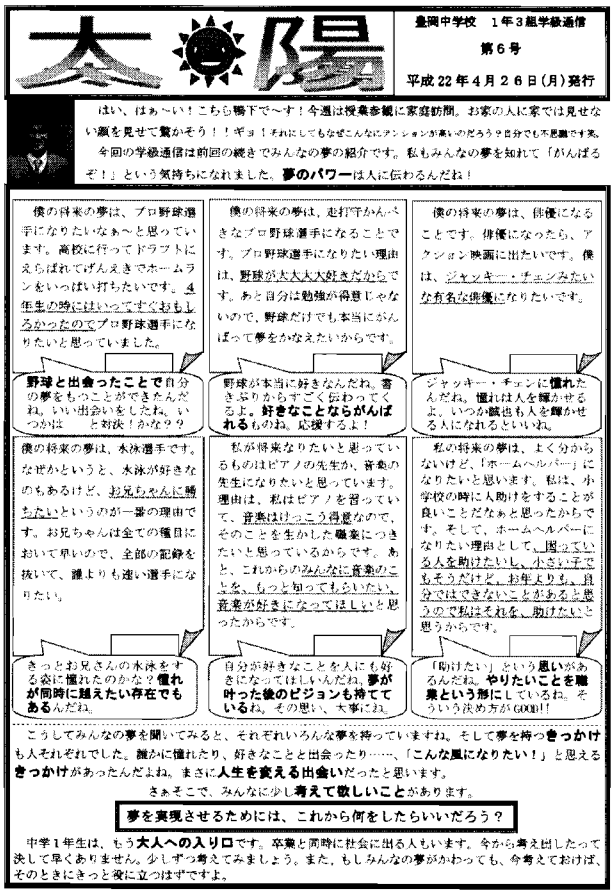
私の夢は、これといってありません。だけど、もうちょっと、大きくなったら、夢がもてるようになりたいです。夢をもってがんばろうと思いました。

学級通信第２号と３号は、生徒たちが生活記録に書いてきた夢を掲載した（図４）。掲載にあたって、「のせないで」と書いた生徒については、掲載しないよう配慮した。「のせないで」という意思表示をしなかった生徒に関しては、基準を設定して掲載の可否を決定した。

先に挙げたように、生徒たちが書いた夢は、具体的なものもあれば、抽象的なものもある。そして、未だ決めかねているものもいる。この学級通信によって、具体的な職業を決めている生徒の夢を載せることにより、抽象的なものや未だ決めかねている生徒たちが「自分もはっきりとした夢をもとう」という意欲を持たせたい。そこで、掲載にあたる基準を以下のように設けた。

具体的な職業を書いてきた生徒は、それぞれがこれまでに経験してきたあらゆる出来事がきっかけとなっていた。そのきっかけの書き方は、大きく①得意なことや好きなことが派生したもの、②接した人への憧れに近づこうとするもの、の２つに分けることが出来た。学級通信第２号と３号では、この２点

が分散するように掲載することと、掲載される生徒の男女比が１：１となるようにした。


太陽

豊岡中学校　1年3組学級通信
第6号
平成22年4月26日(月)発行

はい、はぁ～い！こちら勝下で～す！今週は授業参観に家庭訪問。お家の人に家では見せない顔を見せて驚かそう！！ギョ！それにしてもなぜこんなにテンションが高いのだろう？自分でも不思議です笑。
今回の学級通信は前回の続きでみんなの夢の紹介です。私もみんなの夢を知れて「がんばるぞ！」という気持ちになれました。**夢のパワー**は人に伝わるんだね！

僕の将来の夢は、プロ野球選手になりたいなぁ～と思っています。高校に行って ドラフトにえらばれてげんえきでホームランをいっぱい打ちたいです。4年生の時にはいってすごおもしろかったのでプロ野球選手になりたいと思っていました。

野球と出会ったことで自分の夢をもつことができたんだね。いい出会いをしたね。いつかは　　と対決！かな？？

僕の将来の夢は，走打守がんばきなプロ野球選手になることです。プロ野球選手になりたい理由は，野球が大大大大好きだからです。あと自分は勉強が得意じゃないので，野球だけでも本当にがんばって夢をかなえたいからです。

野球が本当に好きなんだね。書きぶりからすごく伝わってくるよ。**好きなことならがんばれる**ものね。応援するよ！

僕の将来の夢は、俳優になることです。俳優になったら、アクション映画に出たいです。僕は、ジャッキー・チェンみたいな有名な俳優になりたいです。

ジャッキー・チェンに**憧れた**んだね。憧れは人を輝かせるよ。いつか職也も人を輝かせる人になれるといいね。

僕の将来の夢は、水泳選手です。なぜかというと、水泳が好きなのもあるけど、お兄ちゃんに勝ちたいというのが一番の理由です。お兄ちゃんは全ての種目において早いので、全部の記録を抜いて、誰よりも速い選手になりたい。

きっとお兄さんの水泳をする姿に憧れたのかな？**憧れが同時に越えたい存在でもある**んだね。

私が将来なりたいと思っているものはピアノの先生か、音楽の先生になりたいと思っています。理由は、私はピアノを習っていて、音楽はけっこう得意なので、そのことを生かした職業につきたいと思っているからです。あと、これからのみんなに音楽のことを、もっと知ってもらいたい、音楽が好きになってほしいと思ったからです。

自分が好きなことを人にも好きになってほしいんだね。**夢が叶った後のビジョンも持っている**ね。その思い、大事にね。

私の将来の夢は、よく分からないけど、「ホームヘルパー」になりたいと思います。私は、小学校の時に人助けをすることが良いことだなぁと思ったからです。そして、ホームヘルパーになりたい理由として、困っている人を助けたいし、小さい子でもそうだけど、お年よりも。自分ではできないことがあると思うので私はそれを、助けたいと思うからです。

「助けたい」という**思い**があるんだね。**やりたいことを職業という形に**しているね。そういう決め方がGOOD!!

こうしてみんなの夢を聞いてみると、それぞれいろんな夢を持っていますね。そして夢を持つ**きっかけ**も人それぞれでした。誰かに憧れたり、好きなことと出会ったり……、「**こんな風になりたい！**」と思える**きっかけ**があったんだよね。まさに**人生を変える出会い**だったと思います。
さぁそこで、みんなに少し**考えて欲しいこと**があります。

夢を実現させるためには、これから何をしたらいいだろう？

中学1年生は、もう**大人への入り口**です。卒業と同時に社会に出る人もいます。今から考え出したって決して早くありません。少しずつ考えてみましょう。また、もしみんなの夢がかわっても、今考えておけば、そのときにきっと役に立つはずですよ。

図４　学級通信３号

自らの経験をきっかけとして記述している生徒たちの夢を紹介することで、<具体的な生徒>、<抽象的な生徒>、<未定の生徒>それぞれに対して以下のような変容を望んだ。

<具体的な生徒>については、その生徒がもつきっかけを大切にするよう呼び掛けるとともに、自身がなりたいと思っている職業に就くためにどうしていくべきかを考えられるように投げかけた。

<抽象的な生徒>に対しては、就きたい職業が具体的でなくても、「こんな風になりたい」「こういうことに関係のある職業につきたい」という想いがあったため、その想いを大切にするよう呼びかけた。また、生徒たちの想いをいかに具体的な職業に転嫁していけばよいのか、という点については、コメントしなかったが、学級通信を配布する際に、具体的な職業を決めている生徒のきっかけを口頭で紹介することで、抽象的な生徒への刺激になることを狙った。

<未定の生徒>については、その全てが「のせないで」と記述したものだったため、学級通信には、掲載していない。しかし、これからの中学校生活で出会うだろうあらゆる経験がこの生徒が自身の将来を決めていく刺激となることもある。具体的な職業を書いている生徒や抽象的な生徒がもつ、きっかけや想いを紹介し、クラスメイトのほとんどが何らかの形で将来を描いていることと向き合わせることで、自分の夢を真剣に考えていこうとする意欲を持たせようと考えた。

学級通信第２号と第３号に生徒たちの夢を掲載し、生徒同士の共有を図ったことで、保育士になりたいと書いてきた生徒Ａは、生徒同士の給食中の会話の中で自身の夢について話している。他の生徒が週末にいとこの子どもに会ったという話をした後に、生徒Ａは、「小さい子って、どがわいいらー。だから私保育士になりたいじゃんね」と言っている。

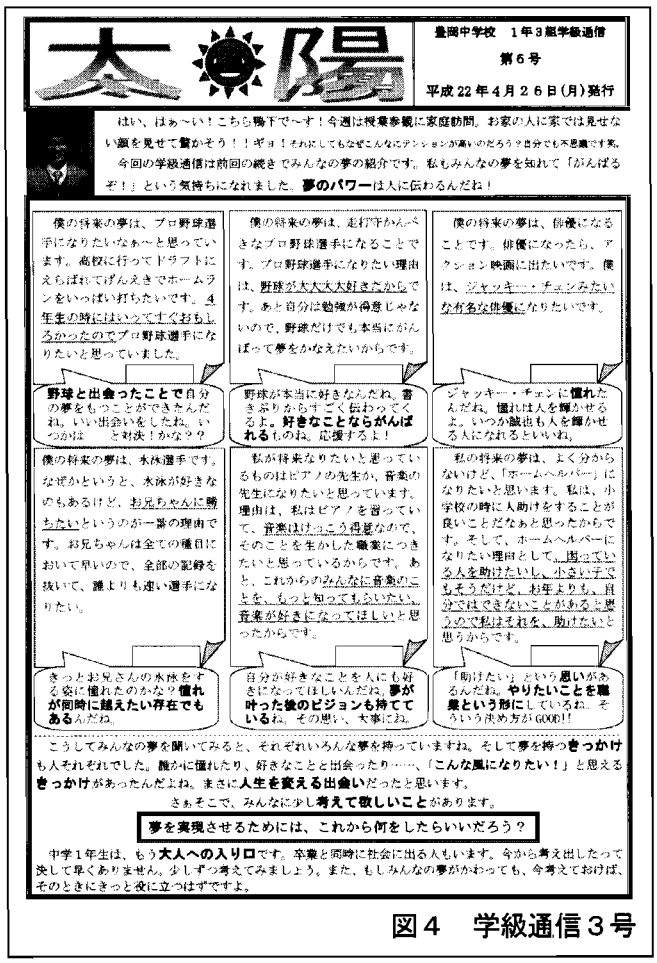
私は、この会話の「だから」という部分に注目した。この生徒が「だから」という順節の接続詞を使っているのは、もうすでに周りの生徒に生徒Ａ自身の夢が知れ渡っているということを自覚していることを意味する。つまり、自分の夢が周囲に認められているということを自覚しており、自身をもって夢を語ることが出来ていると言える。

学級通信で生徒の夢を紹介することによって、生徒自身が周囲に自分の夢を自発的に公表することができた。生徒が周囲に自分の夢を語ることによって、本人が持っている夢を改めて自覚することとなり、夢に対する憧れが強まるだろう。自らによって強められた憧れが出発点となり、どのように夢を実現させていけばよいのか考え始めるのではないだろうか。

さらに生徒Ａは、学級通信第１号によって【自分の夢】を書いてくるよう指示した翌々日の日記の中で「先生が、中学１年生のとき、将来の夢って何だったんですか？やっぱり先生ですか？それとも中学１年生のころは、もっと別の夢がありましたか？」と質問を書いてきた。この日記から生徒Ａは、自分以外の人がどのように将来の夢を描いてきたのか興味を持っていることが分かる。その後、学級通信によってクラスメイトが描く将来の夢を知ることが出来たのは、生徒Ａにとって比較対象を持つこととなっただろう。比較対象を得たことにより、自らの将来について考えていく材料を増やすことができたのではないだろうか。また、これには、私自身がどのように夢の実現に向かってきたかという生き様を、学級通信を通して語ったことによって、教師が夢を実現させた人物として生徒に映り、身近な憧れとなったと考えることもできる。

しかし、生徒Ａのように、他の人間がどのような将来を思い描いているかを知り比較対象を得ることは同年代の生徒たちからだけでは十分ではない。すでに職業についている人間が、どのように自分の将来を考えてこれまでの人生を歩んできたのか問うこ

が分散するように掲載することと、掲載される生徒の男女比が１：１となるようにした。


太陽

豊岡中学校　1年3組学級通信
第6号
平成22年4月26日(月)発行

はい、はぁ～い！こちら鴨下でぇ～す！今週は授業参観に家庭訪問。お家の人に家では見せない顔を見せて驚かそう！！ギョ！それにしてもなぜこんなにテンションが高いのだろうか自分でも不思議です笑。
今回の学級通信は前回の続きでみんなの夢の紹介です。私もみんなの夢を知れて「がんばるぞ！」という気持ちになれました。**夢のパワー**は人に伝わるんだね！

僕の将来の夢は、プロ野球選手になりたいなぁ～と思っています。高校に行ってドラフトにえらばれてげんえきでホームランをいっぱい打ちたいです。4年生の時にはいってすごおもしろかったのでプロ野球選手になりたいと思っていました。

野球と出会ったことで自分の夢をもつことができたんだね。いい出会いをしたね。いつかは　　と対決！かな？？

僕の将来の夢は、走打守かんぺきなプロ野球選手になることです。プロ野球選手になりたい理由は、野球が大大大好きだからです。あと自分は勉強が得意じゃないので、野球だけでも本当にがんばって夢をかなえたいからです。

野球が本当に好きなんだね。書きぶりからすごく伝わってくる**よ。好きなことならがんばれる**ものね。応援するよ！

僕の将来の夢は、俳優になることです。俳優になったら、アクション映画に出たいです。僕は、ジャッキー・チェンみたいな有名な俳優になりたいです。

ジャッキー・チェンに**憧れた**んだね。憧れは人を輝かせるよ。いつか誠也も人を輝かせる人になれるといいね。

僕の将来の夢は、水泳選手です。なぜかというと、水泳が好きなのもあるけど、お兄ちゃんに勝ちたいというのが一番の理由です。お兄ちゃんは全ての種目において早いので、全部の記録を抜いて、誰よりも速い選手になりたい。

きっとお兄さんの水泳をする姿に憧れたのかな？**憧れが何時に越えたい存在でもある**んだね。

私が将来なりたいと思っているものはピアノの先生か、音楽の先生になりたいと思っています。理由は、私はピアノを習っていて、音楽はけっこう得意なので、そのことを生かした職業につきたいと思っているからです。あと、これからのみんなに音楽のことを、もっと知ってもらいたい。音楽が好きになってほしいと思ったからです。

自分が好きなことを人にも好きになってほしいんだね。**夢が叶った後のビジョンも持てている**ね。その思い、大事にね。

私の将来の夢は、よく分からないけど、「ホームヘルパー」になりたいと思います。私は、小学校の時に人助けをすることが良いことだなぁと思ったからです。そして、ホームヘルパーになりたい理由として、困っている人を助けたいし、小さい子でもそうだけど、お年よりも、自分ではできないことがあると思うので私はそれを、助けたいと思うからです。

「助けたい」という**思い**があるんだね。**やりたいことを職業という形**にしているね。そういう決め方がGOOD!!

こうしてみんなの夢を聞いてみると、それぞれいろんな夢を持っていますね。そして夢を持つ**きっかけ**も人それぞれでした。誰かに憧れたり、好きなことと出会ったり……、「**こんな風になりたい！**」と思える**きっかけ**があったんだよね。まさに**人生を変える出会い**だったと思います。
さぁそこで、みんなに少し**考えて欲しいこと**があります。

夢を実現させるためには、これから何をしたらいいだろう？

中学1年生は、もう**大人への入り口**です。卒業と同時に社会に出る人もいます。今から考え出したって決して早くありません。少しずつ考えてみましょう。また、もしみんなの夢がかわっても、今考えておけば、そのときにきっと役に立つはずですよ。

図４　学級通信３号

自らの経験をきっかけとして記述している生徒たちの夢を紹介することで、＜具体的な生徒＞、＜抽象的な生徒＞、＜未定の生徒＞それぞれに対して以下のような変容を望んだ。

＜具体的な生徒＞については、その生徒がもつきっかけを大切にするよう呼び掛けるとともに、自身がなりたいと思っている職業に就くためにどうしていくべきかを考えられるように投げかけた。

＜抽象的な生徒＞に対しては、就きたい職業が具体的でなくても、「こんな風になりたい」「こういうことに関係のある職業につきたい」という想いがあったため、その想いを大切にするよう呼びかけた。また、生徒たちの想いをいかに具体的な職業に転嫁していけばよいのか、という点については、コメントしなかったが、学級通信を配布する際に、具体的な職業を決めている生徒のきっかけを口頭で紹介することで、抽象的な生徒への刺激になることを狙った。

＜未定の生徒＞については、その全てが「のせないで」と記述したものだったため、学級通信には、掲載していない。しかし、これからの中学校生活で出会うだろうあらゆる経験がこの生徒が自身の将来を決めていく刺激となることもある。具体的な職業を書いている生徒や抽象的な生徒がもつ、きっかけや想いを紹介し、クラスメイトのほとんどが何らかの形で将来を描いていることと向き合わせることで、自分の夢を真剣に考えていこうとする意欲を持たせようと考えた。

学級通信第２号と第３号に生徒たちの夢を掲載し、生徒同士の共有を図ったことで、保育士になりたいと書いてきた生徒Ａは、生徒同士の給食中の会話の中で自身の夢について話している。他の生徒が週末にいとこの子どもに会ったという話をした後に、生徒Ａは、「小さい子って、どがわいいらー。だから私保育士になりたいじゃんね」と言っている。

私は、この会話の「だから」という部分に注目した。この生徒が「だから」という順節の接続詞を使っているのは、もうすでに周りの生徒に生徒Ａ自身の夢が知れ渡っているということを自覚していることを意味する。つまり、自分の夢が周囲に認められているということを自覚しており、自身をもって夢を語ることが出来ていると言える。

学級通信で生徒の夢を紹介することによって、生徒自身が周囲に自分の夢を自発的に公表することができた。生徒が周囲に自分の夢を語ることによって、本人が持っている夢を改めて自覚することとなり、夢に対する憧れが強まるだろう。自らによって強められた憧れが出発点となり、どのように夢を実現させていけばよいのか考え始めるのではないだろうか。

さらに生徒Ａは、学級通信第１号によって【自分の夢】を書いてくるよう指示した翌々日の日記の中で「先生が、中学１年生のとき、将来の夢って何だったんですか？やっぱり先生ですか？それとも中学１年生のころは、もっと別の夢がありましたか？」と質問を書いてきた。この日記から生徒Ａは、自分以外の人がどのように将来の夢を描いてきたのか興味を持っていることが分かる。その後、学級通信によってクラスメイトが描く将来の夢を知ることが出来たのは、生徒Ａにとって比較対象を持つこととなっただろう。比較対象を得たことにより、自らの将来について考えていく材料を増やすことができたのではないだろうか。また、これには、私自身がどのように夢の実現に向かってきたかという生き様を、学級通信を通して語ったことによって、教師が夢を実現させた人物として生徒に映り、身近な憧れとなったと考えることもできる。

しかし、生徒Ａのように、他の人間がどのような将来を思い描いているかを知り比較対象を得ることは同年代の生徒たちからだけでは十分ではない。すでに職業についている人間が、どのように自分の将来を考えてこれまでの人生を歩んできたのか問うこ

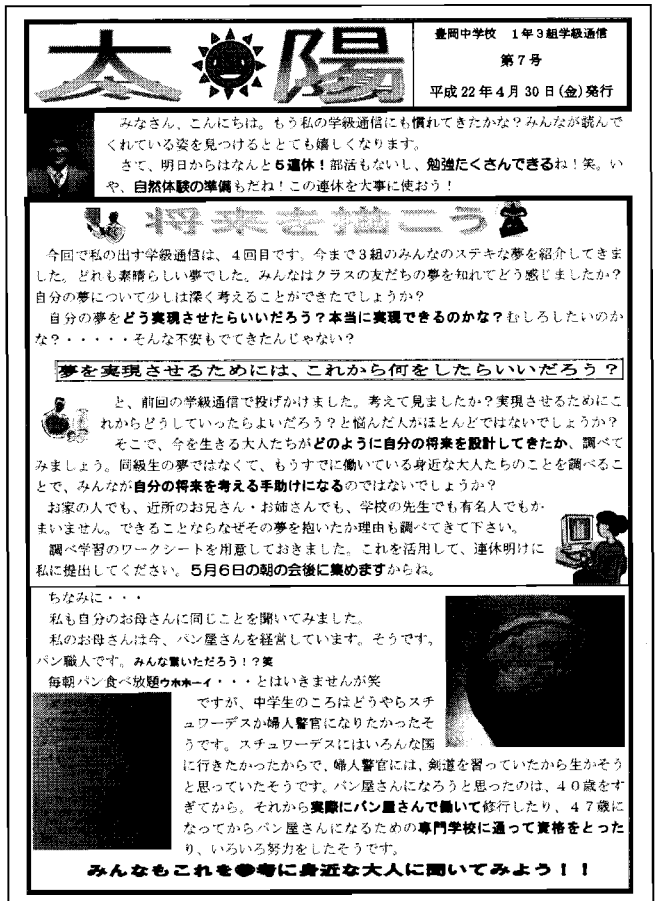
とができれば、生徒たちが描いている夢をより現実に近付けることが出来るのではないだろうか。

そこで、私を含めた大人たちが、中学校１年生当時にどのような夢を描いていたのか、また現在の職業に就こうと考え始めたのはどれくらいの時期なのか、どのような経緯でそう考えたのか、ということについて知ることが必要だと考えた。

（２）　【身近な大人の夢調べ】

学級通信の第３号では、【自分の夢】を紹介するとともに、全体を総括し、「生徒たちが思い描いている夢を実現するためには、何が必要なのだろう」と投げ掛けた。生徒たちの中には、自分が考えている夢は本当に実現できるのだろうかと不安を抱いた者も少なくないだろう。

また、計画していた通り第４号では、生徒の身近な大人たちにどのようにして夢を実現させてきたかをインタビューしてくるように指示した（図５）。図６は、学級通信第４号とともに配布したインタビュー用のワークシートである。ワークシートの裏面には、生徒たちがインタビューする大人の方々へ協力を要請する文章を載せた。



太陽

豊岡中学校　１年３組学級通信
第７号
平成22年４月30日(金)発行

みなさん、こんにちは。もう私の学級通信にも慣れてきたかな？みんなが読んでくれている姿を見つけるととても嬉しくなります。

さて、明日からはなんと**５連休！**部活もないし、**勉強たくさんできる**ね！笑。いや、**自然体験の準備**もだね！この連休を大事に使おう！

将来を描こう

今回で私の出す学級通信は、４回目です。今まで３組のみんなのステキな夢を紹介してきました。どれも素晴らしい夢でした。みんなはクラスの友だちの夢を知れてどう感じましたか？自分の夢について少しは深く考えることができたでしょうか？

自分の夢を**どう実現させたらいいだろう？本当に実現できるのかな？**むしろしたいのかな？・・・・・そんな不安もでてきたんじゃない？

夢を実現させるためには、これから何をしたらいいだろう？

と、前回の学級通信で投げかけました。考えて見ましたか？実現させるためにこれからどうしていったらよいだろう？と悩んだ人がほとんどではないでしょうか？

そこで、今を生きる大人たちが**どのように自分の将来を設計してきたか**、調べてみましょう。同級生の夢ではなくて、もうすでに働いている身近な大人たちのことを調べることで、みんなが**自分の将来を考える手助けになる**のではないでしょうか？

お家の人でも、近所のお兄さん・お姉さんでも、学校の先生でも有名人でもかまいません。できることならなぜその夢を抱いたか理由も調べてきて下さい。

調べ学習のワークシートを用意しておきました。これを活用して、連休明けに私に提出してください。**５月６日の朝の会後に集めます**からね。

ちなみに・・・

私も自分のお母さんに同じことを聞いてみました。

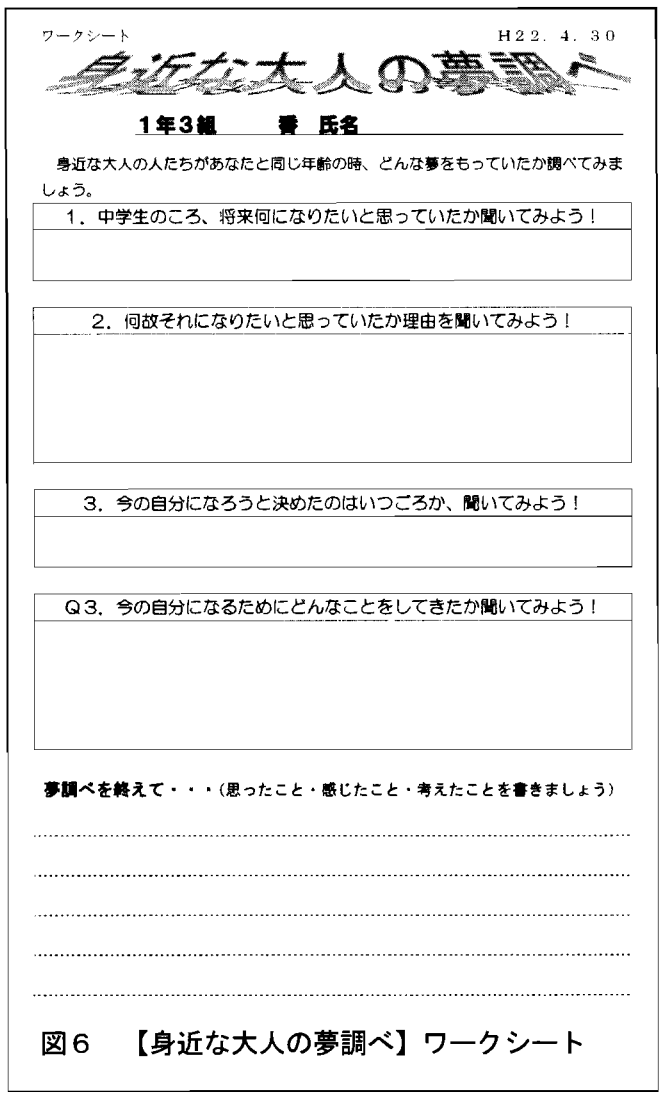
私のお母さんは今、パン屋さんを経営しています。そうです。パン職人です。**みんな驚いただろう！？笑**

毎朝パン食べ放題**ウホホーイ**・・・とはいきませんが笑

ですが、中学生のころはどうやらスチュワーデスか婦人警官になりたかったそうです。スチュワーデスにはいろんな国に行きたかったからで、婦人警官には、剣道を習っていたから生かそうと思っていたそうです。パン屋さんになろうと思ったのは、４０歳をすぎてから。それから**実際にパン屋さんで働いて**修行したり、４７歳になってからパン屋さんになるための**専門学校に通って資格をとった**り、いろいろ努力をしたそうです。

みんなもこれを●等に身近な大人に聞いてみよう！！

図５　学級通信第４号



ワークシート　　H22. 4. 30

身近な大人の夢調べ

1年3組　　番　氏名

身近な大人の人たちがあなたと同じ年齢の時、どんな夢をもっていたか調べてみましょう。

1．中学生のころ、将来何になりたいと思っていたか聞いてみよう！

2．何故それになりたいと思っていたか理由を聞いてみよう！

3．今の自分になろうと決めたのはいつごろか、聞いてみよう！

Q3．今の自分になるためにどんなことをしてきたか聞いてみよう！

夢調べを終えて・・・（思ったこと・感じたこと・考えたことを書きましょう）

図６　【身近な大人の夢調べ】ワークシート

学級通信第４号には、【身近な大人の夢調べ】の指示ともに、生徒たちの調べ学習のモデルとなるよう、生徒たちが使用するワークシートを使って私が私の母にインタビューしたものを載せた。母は、現在パン屋を営んでいるが、パン屋を開こうとおぼろげなら考え始めたのは、４０歳を過ぎてからだった。開業したのは、その８年後であった。その８年間の間に実際にパン屋で修業を積み、４７歳の時に製菓学校に通って製菓衛生士の資格を獲得するなど、開業に向かう努力をしている。

生徒たちにこの話を通して、夢の実現のために何らかの努力が必要であるということを伝えたかった。生徒たちが夢の実現のために何をしたらよいかという具体的な道のりを考えていく前に、生徒たちが夢を実現するために努力する必要があるということに目をむけさせる必要があると考えたためだ。

また、中学校時代に抱いた夢が変わっても何ら問題がないことや、いくつになっても夢を描くことができ、人生を再出発させることが出来るということを伝えたかった。そして、４０代という年齢でも夢を描くことで、精力的に努力を重ねるエネルギーを生み出せるということにも目を向けて欲しかった。

このような意図のもと、生徒たちは、身近な大人の夢たちに夢の実現に関わる話をインタビューして

とができれば、生徒たちが描いている夢をより現実に近付けることが出来るのではないだろうか。

そこで、私を含めた大人たちが、中学校１年生当時にどのような夢を描いていたのか、また現在の職業に就こうと考え始めたのはどれくらいの時期なのか、どのような経緯でそう考えたのか、ということについて知ることが必要だと考えた。

（２）　【身近な大人の夢調べ】

学級通信の第３号では、【自分の夢】を紹介するとともに、全体を総括し、「生徒たちが思い描いている夢を実現するためには、何が必要なのだろう」と投げ掛けた。生徒たちの中には、自分が考えている夢は本当に実現できるのだろうかと不安を抱いた者も少なくないだろう。

また、計画していた通り第４号では、生徒の身近な大人たちにどのようにして夢を実現させてきたかをインタビューしてくるように指示した（図５）。図６は、学級通信第４号とともに配布したインタビュー用のワークシートである。ワークシートの裏面には、生徒たちがインタビューする大人の方々へ協力を要請する文章を載せた。

ワークシート　　H22. 4. 30

身近な大人の夢調べ

1年3組　　番　氏名

身近な大人の人たちがあなたと同じ年齢の時、どんな夢をもっていたか調べてみましょう。

1．中学生のころ、将来何になりたいと思っていたか聞いてみよう！

2．何故それになりたいと思っていたか理由を聞いてみよう！

3．今の自分になろうと決めたのはいつごろか、聞いてみよう！

Q3．今の自分になるためにどんなことをしてきたか聞いてみよう！

夢調べを終えて・・・（思ったこと・感じたこと・考えたことを書きましょう）

……

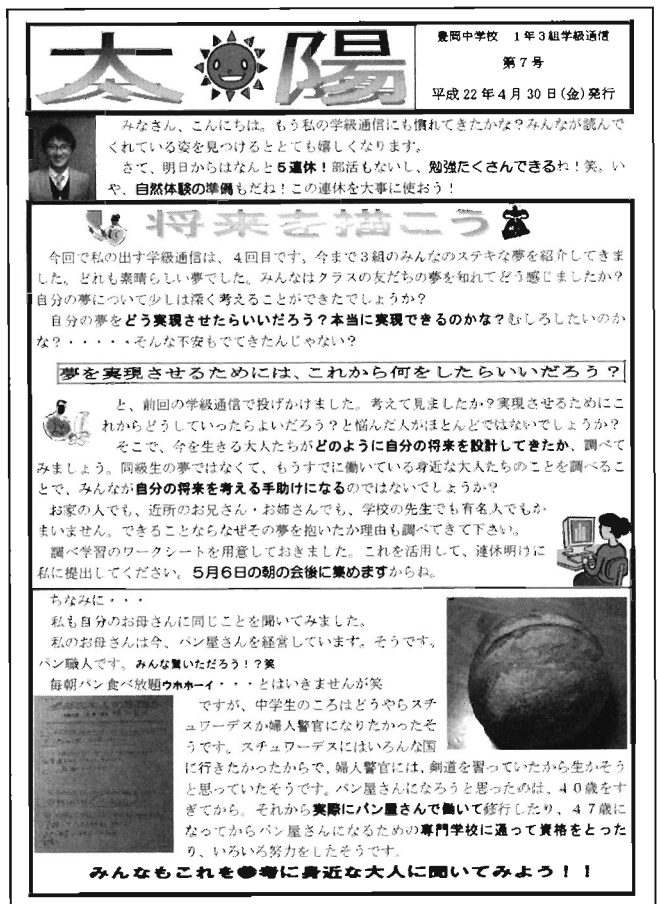
……

……

……

……

図６　【身近な大人の夢調べ】ワークシート



太陽

最岡中学校　１年３組学級通信
第７号
平成22年４月30日（金）発行

みなさん、こんにちは。もう私の学級通信にも慣れてきたかな？みんなが読んでくれている姿を見つけるととても嬉しくなります。

さて、明日からはなんと**５連休！**部活もないし、**勉強たくさんできる**ね！笑。いや、**自然体験の準備**もだね！この連休を大事に使おう！

将来を描こう

今回で私の出す学級通信は、４回目です。今まで３組のみんなのステキな夢を紹介してきました。どれも素晴らしい夢でした。みんなはクラスの友だちの夢を知れてどう感じましたか？自分の夢について少しは深く考えることができたでしょうか？

自分の夢を**どう実現させたらいいだろう？本当に実現できるのかな？**むしろしたいのかな？・・・・・そんな不安もでてきたんじゃない？

夢を実現させるためには、これから何をしたらいいだろう？

と、前回の学級通信で投げかけました。考えて見ましたか？実現させるためにこれからどうしていったらよいだろう？と悩んだ人がほとんどではないでしょうか？

そこで、今を生きる大人たちが**どのように自分の将来を設計してきたか**、調べてみましょう。同級生の夢ではなくて、もうすでに働いている身近な大人たちのことを調べることで、みんなが**自分の将来を考える手助けになる**のではないでしょうか？

お家の人でも、近所のお兄さん・お姉さんでも、学校の先生でも有名人でもかまいません。できることならなぜその夢を抱いたか理由も調べてきて下さい。

調べ学習のワークシートを用意しておきました。これを活用して、連休明けに私に提出してください。**５月６日の朝の会後に集めます**からね。

ちなみに・・・

私も自分のお母さんに同じことを聞いてみました。

私のお母さんは今、パン屋さんを経営しています。そうです。パン職人です。**みんな驚いただろう！？笑**

毎朝パン食べ放題**ウホホーイ**・・・とはいきませんが笑

ですが、中学生のころはどうやらスチュワーデスか婦人警官になりたかったそうです。スチュワーデスにはいろんな国に行きたかったからで、婦人警官には、剣道を習っていたから生かそうと思っていたそうです。パン屋さんになろうと思ったのは、４０歳をすぎてから。それから**実際にパン屋さんで働いて**修行したり、４７歳になってからパン屋さんになるための**専門学校に通って資格をとった**り、いろいろ努力をしたそうです。

みんなもこれを参考に身近な大人に聞いてみよう！！

図５　学級通信第４号

学級通信第４号には、【身近な大人の夢調べ】の指示ともに、生徒たちの調べ学習のモデルとなるよう、生徒たちが使用するワークシートを使って私が私の母にインタビューしたものを載せた。母は、現在パン屋を営んでいるが、パン屋を開こうとおぼろげなら考え始めたのは、４０歳を過ぎてからだった。開業したのは、その８年後であった。その８年間の間に実際にパン屋で修業を積み、４７歳の時に製菓学校に通って製菓衛生士の資格を獲得するなど、開業に向かう努力をしている。

生徒たちにこの話を通して、夢の実現のために何らかの努力が必要であるということを伝えたかった。生徒たちが夢の実現のために何をしたらよいかという具体的な道のりを考えていく前に、生徒たちが夢を実現するために努力する必要があるということに目をむけさせる必要があると考えたためだ。

また、中学校時代に抱いた夢が変わっても何ら問題がないことや、いくつになっても夢を描くことができ、人生を再出発させることが出来るということを伝えたかった。そして、４０代という年齢でも夢を描くことで、精力的に努力を重ねるエネルギーを生み出せるということにも目を向けて欲しかった。

このような意図のもと、生徒たちは、身近な大人の夢たちに夢の実現に関わる話をインタビューして

いる。提出した生徒は３４人中２７人だった。このうち１４人の記述には、それぞれ表現する言葉は違えど、「夢の実現には努力が必要である」という点に気付くことができた。図７は、生徒たちがインタビューしてきた感想と、協力してくださった方々への謝辞を載せた学級通信第６号である。

第６号では、本実習中に配布する学級通信に学級内の全ての生徒の意見を載せようと考えていたため、これまでの学級通信に掲載されていなかった生徒を優先して載せた。また、「夢の実現には努力が必要だ」という点に気付くことが出来た生徒も、掲載する際の基準としている。この【身近な大人の夢調べ】の感想を書いてきた生徒のうち、先の【自分の夢】の実践報告で挙げた生徒のものを以下に挙げる。

＜具体的な生徒＞

● 生徒Ａ

やっぱり夢を叶えるためには、努力が必要で、夢を叶えるのはそう簡単なことではないなと思いました。なので、勉強をがんばり、そこそこの大学に入って、がんばって夢を実現できたらいいなぁって思います。

● 生徒Ｂ

お父さんが今の職に就くのに資格をとっていたなんて、驚きました。お父さんとぼくの夢は全く違っているなぁと思いました。

● 生徒Ｃ

一生懸命努力すれば必ずいいことはある。

＜抽象的な生徒＞

● 生徒Ｄ

母が夢を叶えるのは現実は難しいといっていて、夢があっても現実はなれないかもしれないと思った。けど努力すればなれると思った。私は自分の夢はがんばって叶えてみよう感じた。

● 生徒Ｆ

私も○○さんみたいに動物が好きです。幼稚園の時、ペットショップの人になりたいと思っていました。今は、お母さんみたいな福祉関係の仕事に就きたいです。中１になってから他の夢もできました。

＜未定な生徒＞

● 生徒Ｇ

思ったこと　「特にそれといった事ないんだなー。」と感じた。その時次第という事っぽい。人それぞれなんだろう。

考えたこと　がんばり次第だというのか

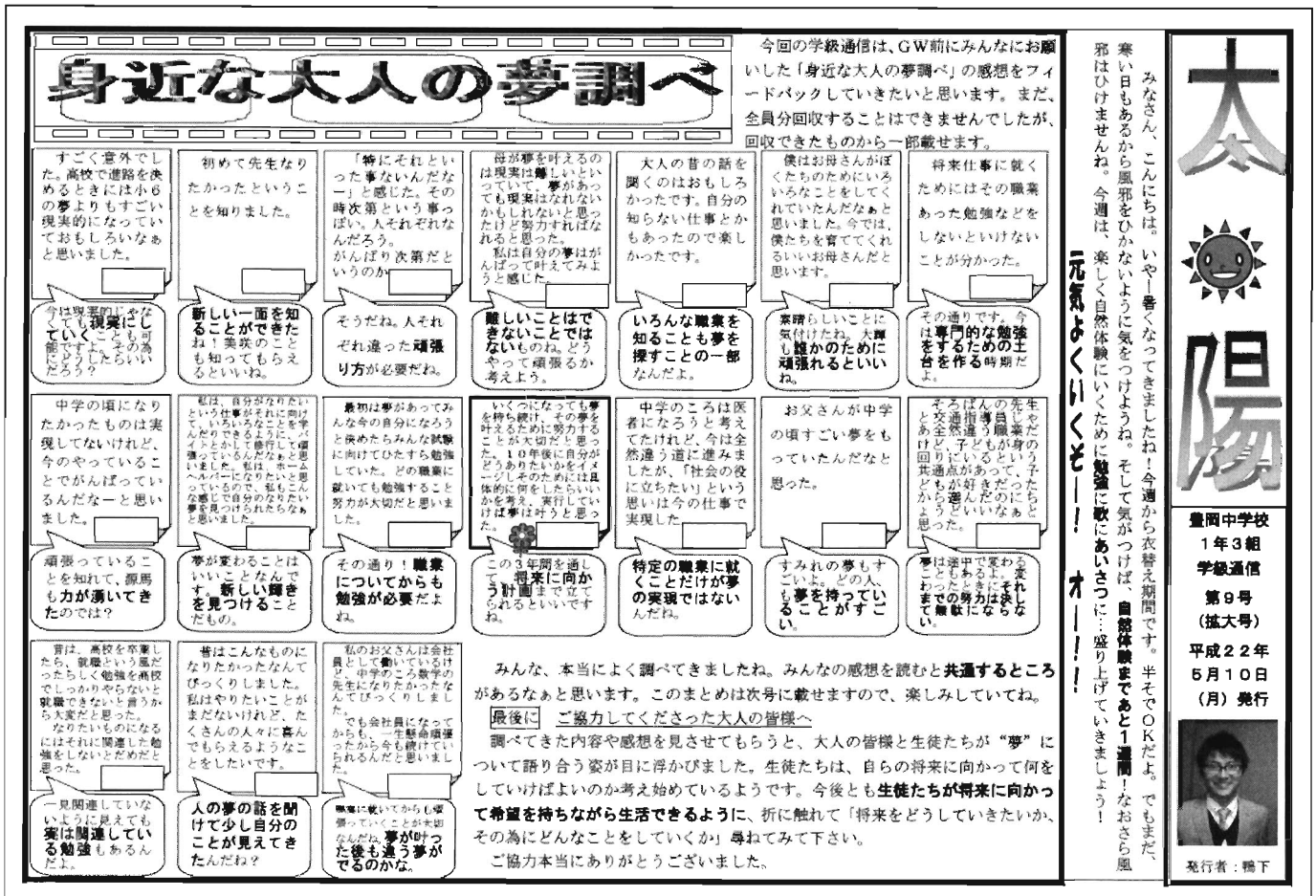
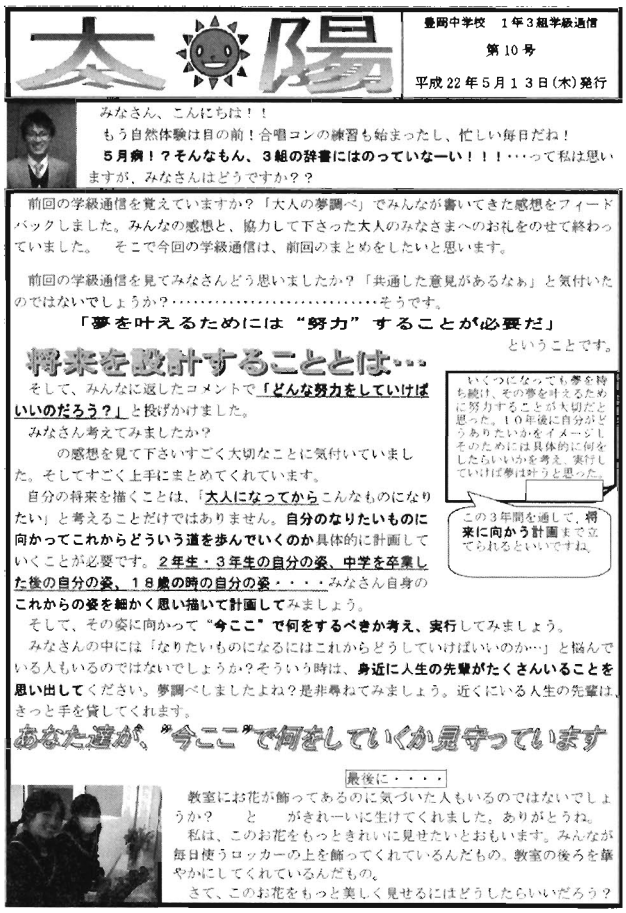


図７　学級通信第６号

● 生徒Ｈ
将来仕事に就くためにはその職業あった勉強などをしないといけないことが分かった。

生徒Ａの記述をみると、この夢の実現に向けて「そこそこの大学に入」ることが必要であるということを学んだようだ。生徒Ａは、先に述べたように、周囲の夢と出会い、周りの人がどのように夢を抱いているのか興味を持つようになり、その興味の上でインタビューに臨んでいる。これは、夢の実現のために必要なことを一つ獲得することが出来たと判断できる。【自分の夢】と【身近な大人の夢調べ】の実践がつながりをもち、一人の生徒が将来を具体的に描く第一歩を踏み出す手助けが出来たのではないだろうか。

生徒Ｂと生徒Ｃは、【身近な夢調べ】の感想では言葉が少ないが、その後大きな変容を見せてくれた。外科医になりたいと語った生徒Ｂは、翌週の月曜日の朝読書から医学に関する本を読み始めている。また、ラグビーで県の選抜に選ばれたいと語った生徒Ｃは、この【身近な大人の夢調べ】の前後に県選抜の練習を見に行っている。生徒たちが【自分の夢】で思い描いた夢を彼らなりに実現するために何が必要か考え、今できることを実践に移している。


太陽

豊岡中学校　１年３組学級通信
第10号
平成22年5月13日(木)発行

みなさん、こんにちは！！
もう自然体験は目の前！合唱コンの練習も始まったし、忙しい毎日だね！
５月病！？そんなもん、３組の辞書にはのっていなーい！！！…って私は思いますが、みなさんはどうですか？？

前回の学級通信を覚えていますか？「大人の夢調べ」でみんなが書いてきた感想をフィードバックしました。みんなの感想と、協力して下さった大人のみなさまへのおれをのせて終わっていました。　そこで今回の学級通信は、前回のまとめをしたいと思います。

前回の学級通信を見てみなさんどう思いましたか？「共通した意見があるなぁ」と気付いたのではないでしょうか？……そうです。
「夢を叶えるためには“努力”することが必要だ」
ということです。

将来を設計することとは…

そして、みんなに返したコメントで**「どんな努力をしていけばいいのだろう？」**と投げかけました。
みなさん考えてみましたか？
の感想を見て下さいすごく大切なことに気付いていました。そしてすごく上手にまとめてくれています。
自分の将来を描くことは、「**大人になってから**こんなものになりたい」と考えることだけではありません。**自分のなりたいものに向かってこれからどういう道を歩んでいくのか**具体的に計画していくことが必要です。**２年生・３年生の自分の姿、中学を卒業した後の自分の姿、１８歳の時の自分の姿**・・・・みなさん自身の**これからの姿を細かく思い描いて計画して**みましょう。
そして、その姿に向かって**“今ここ”で何をするべきか考え、実行**してみましょう。
みなさんの中には「なりたいものになるにはこれからどうしていけばいいのか…」と悩んでいる人もいるのではないでしょうか？そういう時は、**身近に人生の先輩がたくさんいることを思い出して**ください。夢調べしましたよね？是非尋ねてみましょう。近くにいる人生の先輩は、きっと手を貸してくれます。

いくつになっても夢を持ち続け、その夢を叶えるために努力することが大切だと思った。１０年後に自分がどうありたいかをイメージしそのためには具体的に何をしたらいいかを考え、実行していけば夢は叶うと思った。

この３年間を通して、**将来に向かう計画**まで立てられるといいですね。

あなた達が、“今ここ”で何をしていくか見守っています

最後に・・・・
教室にお花が飾ってあるのに気づいた人もいるのではないでしょうか？　と　がきれーいに生けてくれました。ありがとうね。
私は、このお花をもっときれいに見せたいとおもいます。みんなが毎日使うロッカーの上を飾ってくれているんだもの。教室の後ろを華やかにしてくれているんだもの。
さて、このお花をもっと美しく見せるにはどうしたらいいだろう？

図８　学級通信第７号

生徒Ｄは、「私は自分の夢はがんばって叶えてみよう感じた」と書き、夢そのものは抽象的でも、夢がはっきり見えてきたときには、かなえられるように頑張るという意欲が強くなったことが分かる。さらに、生徒Ｅは「中１になってから他の夢もできました」と述べ、中学校生活が始まってからの短い期間の中でも自身の心を揺さぶられる経験をし、新しい夢を描き始めている。

生徒Ｇは、具体的な夢はなく、ただ幸せに暮らせればよいと述べていたが、夢の実現にむけて「がんばり次第」という教訓を獲得している。生徒Ｈも同様に努力の必要性に気付いている。彼らが具体的な夢を持った時、この【身近な大人の夢調べ】によって獲得できた教訓を生かしてくれることを願う。

学級通信第６号の中央部分には、太枠で囲んで強調して示した生徒の感想がある。この生徒の記述は、以下のようだった。

● 生徒Ｊ
いくつになっても夢を持ち続け、その夢を叶えるために努力することが大切だと思った。<u>１０年後に自分がどうありたいかをイメージしそのためには具体的に何をしたらいいかを考え、実行していけば夢は叶う</u>と思った。

生徒Ｊの下線部記述は、私が意図した「夢の実現には努力が必要であると気付くこと」を乗り越え、いかに考えていけば夢の実現に向かうかということにも気付くことが出来ている。夢の実現に努力が不可欠だと気付くことが出来ている他の生徒に、より具体的に夢の実現を考えていけるように、この意見を紹介し、【身近な大人の夢調べ】のまとめとしようと考えた。

そこで、学級通信第７号には、生徒Ｊの感想を紹介しながら、将来を具体的に描くために、「中学校２年生・３年生の自分の姿、中学を卒業した後の自分の姿、１８歳の時の自分の姿とこれからの自分の姿を細かく思い描いて計画してみよう」と呼びかけた。

4.　考察と分析

【自分の夢】、【身近な大人の夢調べ】の両実践から得られた成果を３点にわけて以下に挙げる。

第一に、学級通信によって生徒の夢を公表することにより、生徒同士の交流を促すことができた点である。学級通信は、定期的に配信することにより、生徒の日常の一部となる。そして、その学級通信の内容も、生徒の日常の中に入り込む。学級通信に生徒の夢が載っていれば、ごく個人的な問題である将来の夢が、学級の中で生徒全員に開かれたものとな

る。この開かれた状態が、生徒同士の自発的な交流を促した。今回の実践でいえば、生徒同士の交流は、同時に将来の夢を共有することにもつながった。先に見た生徒Aは、他の生徒との交流を通して、将来に対する憧れを強化することができた。学級通信によって、夢を語ることが当たり前であるという環境が作り出され、その環境が他の生徒との交流・共有を生みだし生徒Aの変容を促していた。

第二に、生徒にとって身近な大人たちがどのように人生を設計してきたかというモデルを示すことにより、生徒の将来をより現実的に捉えさせることができた点である。生徒たちは、身近な存在からモデルを得たことで、小学校時代に思い描いた漠然とした将来の夢を現実的なレベルで考えられるようになった。生徒たちは、モデルを通して自身の将来を見つめることで、将来が今の生活に近づき、生徒の将来をより現実的にとらえられた。現実的に将来を見つめることで生徒自身の今の生活のあり方を考え直させるきっかけともなった。このことは、先の【身近な大人の夢調べ】の実践に見た生徒Bや生徒Cの変容によって裏付けられる。

第三に、生徒たちが目先の進路を選択する際に、長いスパンでの将来像をもたせ逆算的な将来設計ができる力を養うことが、実践の工夫によって可能であり、どの程度の見通しを持つべきか理解できた点である。冒頭で述べたように、「目先の進路選択を単独で考えがちな中学生に対して、もう一歩先の将来を見通す視点をもたせることが必要である」という思いをもって、実践に臨んだ。生徒Jが、人生全体の設計を見通すために、「１０年後の自分をイメージする」必要があると考えた。これは、公立中学校の一般生徒の声である。生徒たちが自身将来を設計していくために、私たち教師は、１０年先の自分をイメージさせる工夫が必要である。その上で中学卒業後の進路選択を逆算的に考え、支援していくべきではないだろうか。

今、上級学校への進学指導を中心とした「進路指導」のあり方を問い直し、新たな概念として導入された「キャリア教育」が、徐々に各学校に浸透し、実践に移されている。生徒たちが自分自身の夢を具体的に描き、近づいていくためには、将来設計能力を育成していく必要がある。そのためには、生徒たちの夢を共有させる工夫や身近なモデルの提示方法をより一層工夫する必要があるのではないだろうか。

私も来年度４月には、公立学校の教壇に立つ。その時に、本実践から得られた教訓を念頭に置きながら、更なる工夫を凝らして生徒たちのキャリア選択の幅を広げられる実践を続けていきたい。

最後に、本実践を終えて５カ月がたったころ、【自分の夢】の実践報告で「将来の夢は特にない」と述べていた生徒Gの変容を見ることが出来た。後期に入って、学級掲示用のプロフィールカードを作成する際、「将来の夢」の欄に小さく「教師」と書いていた。４月当時、夢を持っていなかった生徒Gが、おぼろげになりたい職業をイメージし始めた。私も生徒Gの憧れの対象の一員となる。夢を考えさせる教師であると共に、夢を与える教師であるように、教育への熱を燃やし続けたい。

【キャリア教育、学級経営に関わる参考文献】

- 中央教育審議会　「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」　（平成１１年１２月）
- 日本キャリア教育学会編　『キャリア教育概説』　（東洋館出版社　２００８）
- 片野智治編　『エンカウンターで進路指導が変わる　－生き抜くためのあり方生き方教育－』　（図書文化　２００９）
- 尾木直樹　『尾木直樹　の学級通信　―躍動する１年生―』　（民衆社　１９９０）
- 神谷孝男　「キャリア教育の推進・充実を図るために」（文部科学省委嘱　『キャリアスタートウィーク推進地域事業報告書（第２年次）』　２００７）
- 加澤恒雄・広岡義之編著　『新しい生徒指導・進路指導－理論と実践－』　（ミネルヴァ書房　２００７）
- 志賀廣夫編著　『できる教師の１０の技』（ルック　２００９）

---

i　筆者は、２００９年９月から当校で学校サポーターをしている。また、当校は、教職大学院実習科目「教師力向上実習Ⅰ」、「教師力向上実習Ⅱ」の受け入れ校として協力していただいた。

ii　吉田辰雄　「Ⅱ章　進路指導からキャリア教育へ　２　進路指導からキャリア教育へ」　（『キャリア教育概説』日本キャリア教育学会編　東洋館出版社　２００８　p.43）

iii　中央教育審議会　「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」　（平成１１年１２月）

iv　文部科学省　『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』　２００４

v　菊池武剋　「Ⅰ章　キャリア教育の理念と性格　１　キャリア教育とは何か」　（『キャリア教育概説』　p.13）

vi　（　）は、筆者加筆。

vii　文部科学省　『小学校・中学校・高等学校　キャリア教育推進の手引き　－児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－』　平成１８年１１月　p. 55

viii　【身近な大人の夢調べ】については、実習校の地域や当該学年の保護者の実態を加味してこのようなテーマにした。

ix　学級担任教員が発行している学級通信を利用しているため、紙面上の表記と本文上の表記が異なっている。紙面上の表記は、学級担任教員が作成した学級通信と私が作成した学級通信を合算した号数である。